

会議録

会議名	あんしんネットワーク全体会		
開催日時	平成 30 年 10 月 25 日 (木) 19 時～20 時 30 分	開催場所	南小国町自然休養村管理センター 1 階 (和室)
議題	1. 事例検討会 2. 各チームからの連絡及び報告 3. その他	出席者	おおよそ 35～40 名
司会	事例検討チーム 岡本薬剤師	記録者	小国町役場 福祉課 生田敬二

(代筆 福祉課 加祥)

NO	議題	内 容
1	事例検討会	<p>事例提供者 (ケアプランセンターすみれ・秋吉氏) (秋吉氏から本人と妻の状況説明とそれぞれの質問に対しての返答を簡単に記入)</p> <p>今回の事例・・夫 90 歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護 2 ・温泉付きの別荘に、定年後 80 代の妻と住んでいる。 ・子供なし ・昨年 12 月ごろから物忘れが目立ち、バルーンの自己抜気と発熱で入退院を繰り返している。 ・物忘れ外来に週 1 回通っており、アルツハイマー型認知症とうつ病の診断を受けている。 ・本人は、家でのんびり暮らしたい。妻はたいへんだけ家で見ていきたい。と思っている。 ・認知症になったことで、生活スタイルが大きく変わってきたが、妻は夫の変化を受け入れられない。有料老人ホームの入所も考えると、妻の考えがコロコロ変わる。 ・信頼関係が取れている、友人や親せきがほとんどいない。 ・生活は、2 階が生活の場。1 階は趣味の場となっている。 ・お風呂は温泉だから毎日入る。 ・妻はやけどで、両手の指が第一関節からない。口もやけどをしてる。 ・食事は妻が準備している。 ・妻は施設入所に対しては、夫は他の人と上手くやれないと思っている。 ・経済状況は裕福である。 ・サービスは、デイサービスを週一回・ヘルパーさんを週一回・訪問看護を週二回入れている。 ・気が向かないと聞こえてないふりをするが気が向いた時には協的である

- ・今後の生活の場として、1)二人で暮らし続けるには何が必要か?
- 2)施設入所を選んだ方がいいのか?その時の、本人やご家族のよい進め方や利点はなんなのか?その他、他の選択肢はないのか?ということを検討していただきたい。

司会者・・・施設入所についてをAグループ

在宅生活を継続していくことについてをBグループで話し合ってください。

発表・・・Aグループ（発表者：研修医の先生）

- ・小国郷にある施設の説明をする。（医療が必要）
- ・妻が夫の病気に対して理解ができていないので、主治医より説明してもらう必要がある。
- ・夫婦ともにプライドの高さが将来的なことで不都合が生じている。
- ・頼れる人がいない。夫が施設入所したら妻が一人になる不安がある。
- ・施設を知ってもらうためにショートステイなどをを利用して段階を踏む。
- ・別荘を売り、二人一緒にいることが出来るところを探す。
- ・冬場だけでも夫婦で入所できるところを探す。
- ・入所してやはり家に戻りたいとなった時には、小規模多機能施設を利用すればすべてをカバーできる。

Bグループ（発表者：研修医の先生）

- ・発熱時・感染コントロール・尿の管理の対応として・・・訪問看護や小規模多機能施設の利用。口腔内環境については、歯科医による居宅療養。
- ・居住空間の見直しとして、福祉用具業者とケアマネージャ等でリフォームを考える。
- ・地域近所のかかわりが少ない・支援者が少ないのであれば、もう少し通所サービスを利用できないか？通所サービスを利用するには知識がないと上手く利用できないので、今後の対策としては、本人と妻でサービス内容について考えてもらって、加えてもらいたいサービス等を考えてもらうといいのではないか。

司会者・・・課題の整理が難しく、特に病的なことがとてもコアな要素がありましたので、議論がむずかしかったところもあると思いますが、しっかりアドバイスをいただきました。それぞれの発表に対して質問がある方は挙手をお願いします。どちらの内容も、奥さんのパーソナリティもかかわっており、施設入所した場合のその後の妻の問題が起きてくるのではないかということでした。妻が夫の病気に対しての状況が整理できていないようなことはよくありますか？

片岡先生・・よくはありませんけど、たまにあります。だれが奥さんに対して介入するかということは、結構大切なことで、病院だと医師に任せられる

こともあります。必ずしも、医師が上手く介入できるわけでもないし、ケアマネさんと訪問看護師が言いにいって選択することが多いという話でした。医療側の医師としては、患者さんに介入することが多くて、他の人に介入するのは、他の職種の人にお任せする方がいいのかなと思う時もあるし、気になるところだけをお願いされるときもあるし、そこに関しては、他の職種の方はどうお考えでしょうか？

佐藤氏(連携室)私たちが言うより、先生の言うことなら聞いてくださるので、先生にお願いします。

片岡先生・・そういうこともあるけど、一番わかっているのは医師ではない場合があるので、そこら辺を患者さんにわかってもらうことがぼくらの仕事で、病院の中で一番わかっているのは、看護師ではないか？まとめるのはいいけど、看護師がやってくれる方が現場に即したことが伝わるのかなと思います。

梅田先生・・皆が揃って患者さんと話をする場を設けて、最後に医師がまとめるのが一番いい。

片岡先生・・何のためにカンファレンスをするかというと、できるだけ医師が前に出ないようにして、司会は別の人をして連携室で連携をしてもらって最後に医師がまとめる。というのが上手く行くのかなと思いますので、連携室にもそのようにしてほしいなと思います。ほんとに沢山の人がかかわっているということを患者さんにもわかつていただくのが大事かなと思います。

司会者・・・いろんな角度からいろんな意見を擦りかわすことで発見につながるということですね。AチームからBチームに対して、何か質問はありませんか？Aチームの話の中でも頼れる人がいないとか住まいの問題とかそういうところがあがっていたと思います。

南小国町社協・秋吉さんに質問です。この夫と妻は本当に課題と思っているのか？自分たちはここで住みたい。入所したくないといっている中でまわりの方が「これ課題よね」と決めつけてはいないのか？

秋吉氏・・・本人は課題と思っていない。妻が右往左往するのに一緒になって右往左往することでストレスがたまっている。正直言いまして、今は、有料老人ホームに10月から入所しました。穏やかに暮らしていますし入所後は自己抜去はしません。妻は温泉に入れたいと思っているので、今は、1ヶ月に1回自宅の温泉に入れている。妻がいろいろ言うことで、ストレスがたまりそれがスイッチとなっていた。自宅にエレベーターを付けるよう提案をしたが、考えさせてくださいということです。今後については、エレベーターを付けなければたまに家に連れて帰り、温泉にも入れてやることが出来るので、奥さんは追い出した感じがしなくて、ほっとするのではないかと思う。

		<p>司会者・・・話を聞いていて思ったんですが、二人の関係が何でそこまで煮詰まっているのかなと思うのですが？ご主人が奥様のパーソナリティに対してストレスのないよう回していく方だったんだと思いますが、そのバランスが崩れたのが今回のような難しい状態を生じたのかなと思います。離れることで、ご主人はちゃんと適応できている。二人だけの関係性しか見えてこない外との関係が見えてこない。もう少し地域との関係性が取れていたら二人の関係も違っていたのかなと個人的にも思ったのですが。そのあたりどうでしょうか？</p> <p>穴井氏（なごみ）小国郷の移住者の方が増えているなと思う中で、移住者の方が住みやすいところがあるのかな？若い方たちは移住者の会があって、いろいろなイベントに参加して移住者同士のつながりをされているところもあるが、地域の方との関係づくりが出来ていないなと思います。移住者の方が増えているのに、地域の方との関係づくりが出来ていないのは、考えていかなければならぬのではないか。</p> <p>司会者・・・確かに移住を進めているが、一方で地域との関係性が作れないのは地域課題ではないかと思う。</p> <p>片岡先生・行政からの意見をお願いします。</p> <p>生田課長・小国町も空き家バンクの登録制度を作っています。やはり、地域との関係が上手く行かないという話は聞いております。ですから、今は、お試し住宅ということで、ある一定期間住んでもらって、小国町での生活や近所の方との交流を持つてもらうようにしています。私たち福祉課の業務にも大きくかかわってきますので、これから一緒にになって考えていきたいと思っています。</p> <p>河津審議員・移住定住は町づくり課が担当になりますが、移住して来られた方の生活面では、いろいろな課がかかわってくると思います。なので、今後は町の各課のつながりをつくっていかなくてはならないと思っています。</p> <p>司会者・・・秋吉さんに最後に一言だけお願いします。</p> <p>秋吉氏・・・先ほど穴井さんが言われましたように、移住して来られた方を何例かうけもちましたが、年を取れば地域とのつながりがないと生活していくのは難しいので、これは小国郷の課題かなと思います。有料老人ホームに入所しましたが、自分で今までのことを見つめ直すいい機会がもてたのでよかったです。ありがとうございました・</p> <p>司会者・・・各チームより連絡をお願いします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討チーム・・・3月に事例検討報告という形で有働さんより報告の予定です。 ・カフェチーム・・・少しづつですが参加者が増えています。11月8日はどんぐりころころの読み聞かせがあります
2	各チームから連絡及び報告	

ので、興味のある方は誘っていただければと思います。

穴井氏(なごみ)寒くなってきてるので暖房のことを考えてもらわないといけません。こたつ布団などがかび臭いので天気の良い日に外に干しますのでブルーシート5~6枚あれば干せますのでその時期を募ってもらえたたらと思います。

穴井(南包括)今日は僕がカフェに行きましたが、まだ、矢羽田さんに伝えられていない状況です。カフェの畳のところが雨漏りをしていますので、この場で公立病院にお伝えします。

片岡先生・・修理の出所を考えなければいけないので、検討させてください。

梅田先生・・「認知症カフェ」のネーミングを変えたらいいのではないか?検討してください。

穴井(南包括)今、講師の先生に講和をお願いしていますが、最初の入り方から進行役とかを、だれでもできるようにしていただくと時間の見通しなどが出来ていいのではないかと思いました。

・出前講座チーム・・先月はリストさんと後期高齢者の歯科についてを私が老人会でさせていただきました。10月につきましては小国署が2回とリストさんにやっていただきました。11月につきましては、薬剤師会で1回、カンガルーのポッケで小児歯科の話を虎谷先生にお願いしています。

・情報共有チーム・・なし

・美鳥チーム・・・・なし

・広報チーム・・・・認知症ケア学会11月18日にあります。テーマが認知症カフェでいろんな沢山の認知症カフェの事例が報告されます。あんしんネットワークで認知症カフェをやっているのを登録したら採択されましたので発表してきます。ホットオレンジは今年中には仕上げたいと思います。

司会者・・・長時間にわたりお疲れ様でした。今後ともよろしくお願いします。アンケートがありますので記入方お願いします。